

K I Tステークホルダー交流会 報告

近年、大学教育の質的保証が社会の注目を集めるとともに、教育目標や3つのポリシー(入学者受入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針)に基づいた実践と自己点検評価が強く求められている。本学では、企業や保護者、高校教員、OBなどのステークホルダーと教職員が直接意見を交わす交流会を3月4日に開催し、学内外から58名が参加した。

石川憲一学長のあいさつに続き、佐藤恵一教務部長がプロジェクトデザイン教育を柱とした正課教育をテーマに、そして松石正克プロジェクト教育センター所長が夢考房プロジェクトをはじめとする課外教育について、図1のイメージを基に説明を行った。

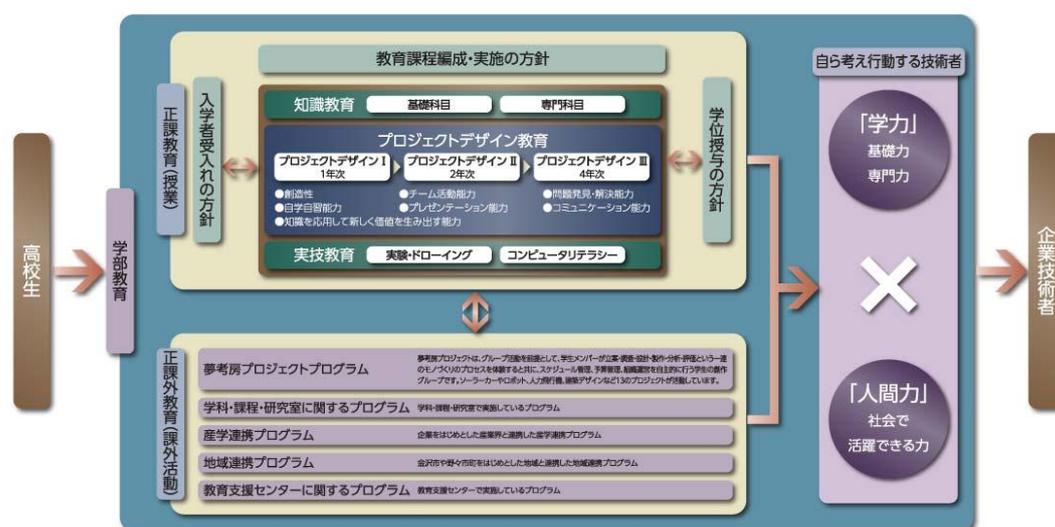


図1 金沢工業大学の正課教育と課外教育

続くパネルディスカッションでは、佐藤教授と松石教授に加え、学生部長の藤本元啓教授ら4名がパネリストを務め、本学の教育に対する要望や学生の成果発表への評価などを題材に議論を進めた。

出席者からの主な意見は次の通りである。

▽自分は10年前に本学を卒業した。在学当時は夢考房プロジェクトのリーダーをつとめ、国内外の大会に出場したが、その経験は今に活かしている。また10数年前と現在の授業を比較してみると、座学に留まらず、実験・演習と結びついたカリキュラムが充実したようだ。〈卒業生〉

▽昨今、大学・高校問わずキャリア教育が重視されているが、人間力を重視した金沢工業大学の方針は、就職活動の観点からも大いに共感できる。〈高校関係者〉

▽ポートフォリオシステムの運用にあたり、教員や学生から「面倒くさい」との不満の声は上がらないのか。モチベーションを維持する際の工夫を教えて欲しい。〈他大学関係者〉

▽チームを基本とした課外活動では、学生同士の人間関係が要となる。大学によるサポート体制は整えられているのか。〈他大学関係者〉

▽夢考房プロジェクト発表会を見て回ったが、完成度の高さや学生の熱意にバラつきが見られた。プロジェクトの垣根を越え、各取り組みに対する意識の統一を図る場を設けて、その差を埋められないか。〈企業関係者〉

当日はアンケートを実施した。主な集計結果は次の通りである。

■ アンケート①

金沢工業大学全体に対する印象を(A)現在のイメージと(B)期待する姿について、各々4段階で尋ねた。項目別の回答割合を図2に示す。

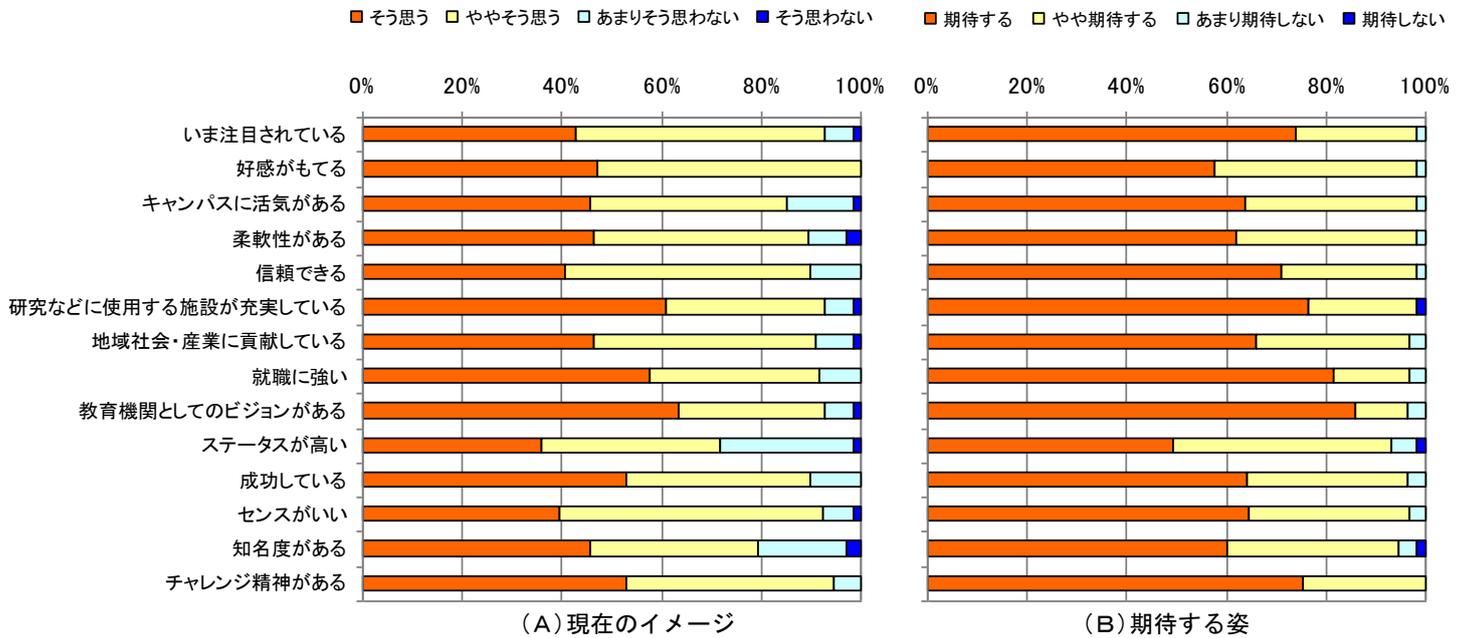


図2 金沢工業大学の現在のイメージと期待する姿

■ アンケート②

金沢工業大学の学生に対する印象を(A)現在のイメージと(B)期待する能力について、各々4段階で尋ねた。なお、回答者は社会人に限定した。項目別の回答割合を図3に示す。

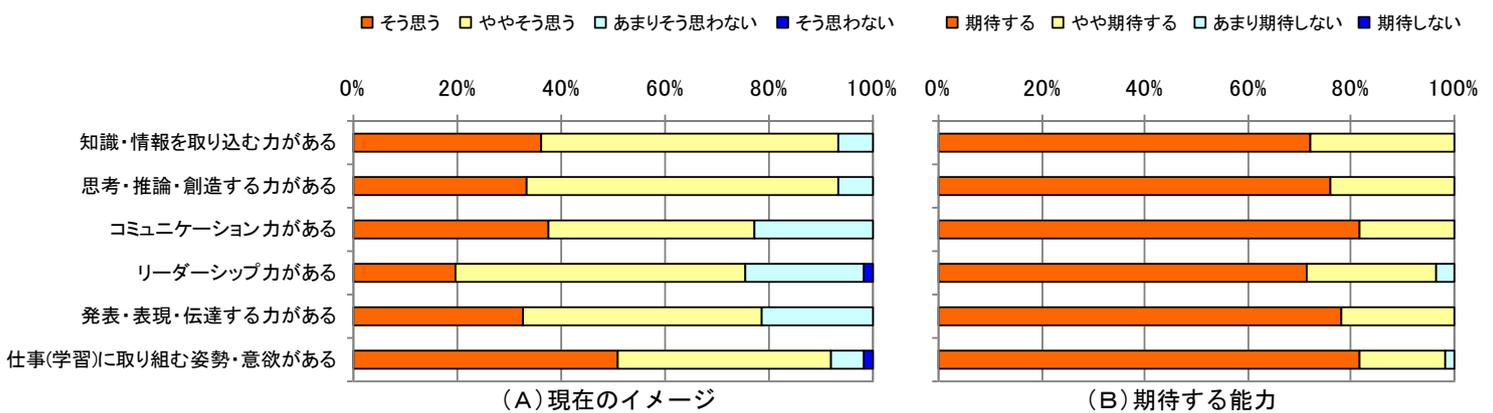
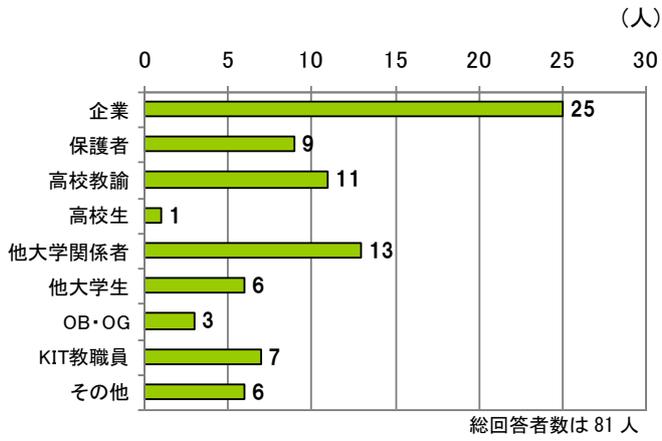


図3 金沢工業大学の現在のイメージと期待する能力

■ 参考

(1) アンケート回答者の内訳



(2) K I Tステークホルダー交流会の様子

